第３回淀川の魅力ある景観づくりに向けた検討会　議事概要

開催日時　：平成 30 年 12 月 28 日(金)　9:30～11:30
出席委員　：藤本委員、加我委員、石田委員、
　　上須委員、久ノ坪委員、一本松委員
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：淀川河川公園管理センター、大阪府、大阪市、守口市、枚方市、高槻市、摂津市、
　　島本町、京都府、京都市、八幡市、大山崎町
事務局　　：大阪府住宅まちづくり部都市空間創造室

【淀川の魅力ある景観発掘コンテストの結果について】

○選定された場所へのアクセス方法がわかりやすくなれば、大阪・関西へのより一層の集客性の向上にもつながるのではないか。

【淀川の魅力ある景観づくりに向けて（骨子案）について】

＜基本目標、基本方針について＞

○基本目標、方針にあるような取組みを促進するには、新たに「コト」を生み出していかないといけない。その内容の表現が足りないのではないか。

○「様々な恵み」は、新たに加えることだが、歴史的にあった自然との付き合いを考慮して、「様々な恵みの保全と創造」ということの方がいいのかなと思う。

○具体的な取組みの項目で情報発信を掲げているが、基本方針（案）には情報発信が掲げられていない。改めて必要性に気づいてもらうために、掲げておいた方が良いのではないか。

＜具体的な取組みについて＞

○壁面等にアート作品は、ペインティングで施されたものが、上手く継承されている事例がほぼない。しっかりと検討した上で行う必要がある。

○情報発信は、場所が一番重要。歴史を学べ、人が交流でき、そこに行けば淀川の全てがわかるような場が必要だと思う。まずは今ある施設を活用しながら行っていくべきだと思う。

○発見、発掘、発信をキーワードに情報発信できれば、府民、市民にもっとわかりやすいものになると思う。

○具体的に書くと、それに賛同できないっていう人もどんどん増えるので、どちらかというと大きな方針を示すようなものである方が良いのかなということを思う。

○P11 から P14 の「淀川の魅力ある景観づくりに向けた具体的な取組み」は具体的な記載にはなっていないので、例えば「様々な取組み」にするなど、表現の工夫が必要だと思う。

＜その他＞

○生き物の資源を利用した食文化というのが、昔から大阪、京都を支えてきたということもありますので、そういった食文化の視点というのも入れていただきたい。

○動の規模（範囲、人数など）の現状分析、把握をすることで、シナジーを生み出していくことができるのではないか。

〇水防団活動など、淀川の治水にも視点をあてるんであれば、現状のそういう活動にもここでピックアップしていただけるとありがたい。

〇地形の変化と自然環境、歴史・文化の変遷がリンクしていることを知ることで、興味の幅が広がるのではないか。

〇鴨川では「七条大橋をきれいにする会」等の市民団体による清掃活動や橋梁のライトアップの事例がある。

〇万博の動きや海外の方の利活用も見据え、AR、ICT 等に活用できるコンテンツの収集をしておくべきだと思う。

〇今の景観マップには、場所の情報の記載はあるものの、季節の移ろいや時間の流れ等の情報がないので、実際に訪れたいと思うような情報の出し方の工夫が必要ではないか。

〇最終、府民、市民の皆様に愛着をもってもらい、シナジーを生んでいくためにも、その良さを知っている皆様からも具体事例を挙げていただき、盛り込んでいくべきだと思う。

〇今後、活動団体等による取組みの見える化できる資料が必要だと思う。

〇各市の広報担当と連携して情報発信することで、発信量が増えるのではないか。

＜淀川の魅力ある景観づくりに向けた取組みについて＞

〇つくり出すところにちょっと注力しすぎている感は否めないが、つくり出すのはハードではなく、関係性。人間の関係性と活動の関係性をつくり出す、見る側と見られる側との関係性をつくり出す、そういうところにも注力いただきたいと思っている。

〇新たなものを生み出すというよりかは、あるものをどう活かしていくかっていうところだと思う。今までの長い歴史の中で、人と川とがどう向き合ってきたかということを再発掘、普段当たり前に思っていることを発見することが大事だと思う。

〇「景観」という言葉が視覚的な景観として捉えられがちだが、「景観まちづくり」の視点から考えると淀川で起こっている「コト」すべてが景観の保全、創造に繋がるという考え方が重要である。

〇計画づくりでは、誰がいつまでに何をやるのかの議論をするのではなく、淀川で活動する人のすべてが景観づくりのプレイヤーとなっているという認識を共有し、個々に取り組まれている「コト」を応援するための指針として、今回の「淀川の魅力ある景観づくり」の検討があって欲しい。